

2月定例会で 議長に 就任しました



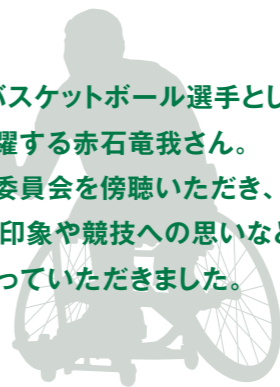
第18代
さいたま市議会議長
さかもと かつみ
阪本 克己

長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響により、今、市民生活や地域経済は、様々な課題に直面しています。

さいたま市議会では、こうしたコロナ禍においても、しっかりと市民のために働き、市民に開かれたわかりやすい議会の実現に向けて、市民福祉の向上と市の健全な発展を確実に達成していきたいと考えます。

今後とも、市民の皆様のご期待に応えられるよう、二元代表制の一翼を担う議会の使命と役割の重要性を踏まえ、市長をはじめ執行部としっかりと政策議論を交わしつつ、さらなる議会機能の充実・強化を図り、公正かつ円滑な議会運営に努めてまいりますので、市議会に対する一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

車いすバスケットボール選手として活躍する赤石竜我さん。予算委員会を傍聴いただき、市議会の印象や競技への思いなどを語っていただきました。



予算委員会を傍聴



終始笑顔で進んだインタビュー



議会棟内も見学された赤石さん



チームでの練習の様子

撮影：埼玉大学写真部 久澄伸太郎さん

傍聴すると断然面白い 市議会のリアルな攻防戦

市議会を傍聴されて、ご感想は？

面白くて思わず聞き入ってしまった。予算委員会を傍聴したのですが、職員のプロプライエタンス徹底、市政の見える化、防災組織育成など、真剣勝負の話合いがされていて、とても印象的でした。議論の内容をよく聞くと納得できるような話もあり、自分も考えさせられましたね。時には熱く語ったり、笑顔が見られたり、市議会はすごく堅いイメージだったのですが、少し身近に感じるようになりました。

市議会にもっと興味を持っていただくためには？

インターネットでも中継しているんですけど、関心のない人はそこまでたどり着かないと思うんです。市議会は自分たちの

自分を成長させてくれた パラリンピックへの道のり

車いすバスケットボールとの出会いを教えてください。

中学生の時、兄や友人の影響でバスケットボールに興味を持ち、そこで門を叩いたのが車いすバスケットボールチームの「埼玉ライオンズ」でした。また、僕が中学生になった2013年は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決定し

た年でもありました。運命のようなものを感じ、その時から「日本代表になる！」と心に決め、周りにも公言していました。自分の夢や目標を胸を張って言えないと、実現は難しいですよ。僕のモットーは「有言実行」。日本代表という目標を本気で叶えるため、自分に言い聞かせ続けてきました。

日本代表の夢が叶った瞬間はどんな気持ちでしたか？

夢に描いた舞台ですからうれしかったですよ！でも、それ以上に大きな責任を感じました。日本代表に選ばれたのはたった12人。代表になれなかった仲間たちの悔しさと涙を見てきたからこそ、自分は必ず結果を出さなければいけないと、日の丸の重さを初めて感じました。

パラリンピックで銀メダルを獲得。試合にはどのように臨んだのですか？

メダルは目標ではありましたが、今でも半信半疑ですよ(笑)。チームで「一心」というスローガンを掲げていたのですが、試合を重ねるごとに心が一つになり、チームとして完成度が高まっていったと感じています。強豪がひしめく中で勝ち上がるのができたのは、相手よりも「自分」に集中して、自分たちのプレースタイルに自信を持って臨めたことが大きかったと思います。

赤石さんの心の強さの秘訣は何でしょうか？

現実には打ちのめされそうになったことは何度もありますが、そのたびに「自分」と対話してきました。同世代の選手に追い抜かれて、バスケットを辞めたいと思った時期もありました。でも、「今辞めたら逃げたことになる。あと1年間だけ頑張ってみよう。それで芽が出なかったら、その時はきっぱり諦めよう。それなら辞めても後悔はないはずだ」と考えました。自分の中でゴールを決めてみたんです。

東京2020オリンピック・パラリンピックも、コロナ禍で開催が危ぶまれた時期がありました。現実を嘆くより今自分はどうあるべきかに集中して、目の前の小さな目標を越えてきました。その姿勢は、これからも持ち続けたいと思います。

大好きなさいたま市で子どもたちに スポーツの力を伝えていきたい

普段はどのような生活を送っていますか？

今は大学で、児童スポーツ教育学やスポーツ社会学などを学んでいます。日中は授業に出て、夜は埼玉ライオンズの練習に参加することが多いです。一人暮らしをしているのですが、両親のありがたみを感じておじみと感じますね。おいしい食事を作ってくれる母、いつも僕を応援してくれる父に感謝です。

さいたま市の好きなところは？

長期休暇になると寂しくなって実家に帰るのですが、そのたびに僕の中でさいたま愛が膨らんでいきます。道が広くて車で走りやすく、公園、レジャー施設、商業施設と何でも揃っていて暮らしやすいですね。実家の近くに三橋総合公園があるので、子どもの頃は日が暮れるまで友達とドッジボールなどをしてよく遊んでいました。

これからのさいたま市に望むことは？

みんなに自慢したい大好きなホームタウンですが、「さいたま市って何があるの？」と聞かれると、なかなか答えられない(笑)。市議会と市民の皆さんで力を合わせて、さいたま市の名物を生み出した、魅力を伝えていってほしいですね。僕と同じように、市民の誰もが住んでよかったと思えるまちになることを期待します。

今後の夢を教えてください。

今の目標は、2024年のパリパラリンピックで再び日本代表に選ばれて、メダル獲得に貢献することです。将来は指導者として、子どもたちにスポーツの素晴らしさや自分の経験を伝えていきたいですね。また、車いすバスケットを通じて地域の方々と交流していきたいとも考えています。

自分たちが頑張る姿を通じて、スポーツの大きな夢を描く子どもが一人でも増えてくれたらうれしいですね。自分を強くして、世界を広げてくれる——そんなスポーツの力を皆さんに伝えていく役割が果たせたらと願っています。

赤石竜我さん



「夢実現の第一歩は
周りの人に胸を張って語ること」

あかいし・りゅうが 2000年生まれ。さいたま市出身。三橋中学校卒業。車いすバスケットボールチーム「埼玉ライオンズ」に所属。現在は、学業と両立させながら競技を続けている。東京2020パラリンピックではチーム最年少ながら全試合に出場し、銀メダル獲得に貢献した。